

1 - 1 日本とその周辺の地震活動 (2019 年 11 月～2020 年 4 月)

Seismic Activity in and around Japan (November 2019 – April 2020)

気象庁

Japan Meteorological Agency

今期間、日本とその周辺で M5.0 以上の地震は 52 回、M6.0 以上の地震は 4 回発生した。このうち最大のものは、2020 年 2 月 13 日 19 時 33 分に択捉島南東沖で発生した M7.2 の地震であった。また、2011 年 3 月 11 日に発生した「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」(M9.0, 最大震度 7, 以下「東北地方太平洋沖地震」と呼ぶ) の余震が、前期間に引き続き、岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生した。2019 年 11 月～2020 年 4 月の M5.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

(1) 北海道地方とその周辺の地震活動 (本巻「北海道地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2019 年 12 月 12 日 01 時 09 分に宗谷地方北部の深さ 7 km で M4.2 の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。この地震は地殻内で発生した。

2020 年 2 月 13 日 19 時 33 分に択捉島南東沖の深さ 155 km で M7.2 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は北北西－南南東方向に張力軸を持つ型である。

(2) 東北地方とその周辺の地震活動 (本巻「東北地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2019 年 12 月 19 日 15 時 21 分に青森県東方沖の深さ 50 km で M5.5 の地震 (最大震度 5 弱) が発生した。この地震は、発震機構 (CMT 解) が北北東－南南西方向に張力軸を持つ正断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

今期間に東北地方太平洋沖地震の余震域で発生した M5.0 以上の地震は 11 回、M5.5 以上の地震は 5 回であった。

(3) 関東・中部地方とその周辺の地震活動 (本巻「関東・中部地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2020 年 3 月 13 日 02 時 18 分に石川県能登地方の深さ 12 km で M5.5 の地震 (最大震度 5 強) が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構 (CMT 解) は、西北西－東南東方向に圧力軸をもつ逆断層型である。

2020 年 4 月 23 日 13 時 44 分に長野県中部の深さ 3 km で M5.5 の地震 (最大震度 4) が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。また、この地震の発生後、同日 13 時 57 分に M5.0 の地震 (最大震度 3)、26 日 02 時 22 分に M5.0 の地震 (最大震度 3) が発生した。これらの地震の一連の活動により、4 月 22 日から 30 日までに震度 1 以上を観測する地震が 67 回発生している。

(4) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (本巻「近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2019 年 11 月 26 日 15 時 09 分に瀬戸内海中部の深さ 16 km で M4.6 の地震(最大震度 4)が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。また、26 日 07 時 58 分にも今回の震源とほぼ同じ場所で M3.8 の地震(最大震度 3)が発生した。

(5) 九州地方とその周辺の地震活動(本巻「九州地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

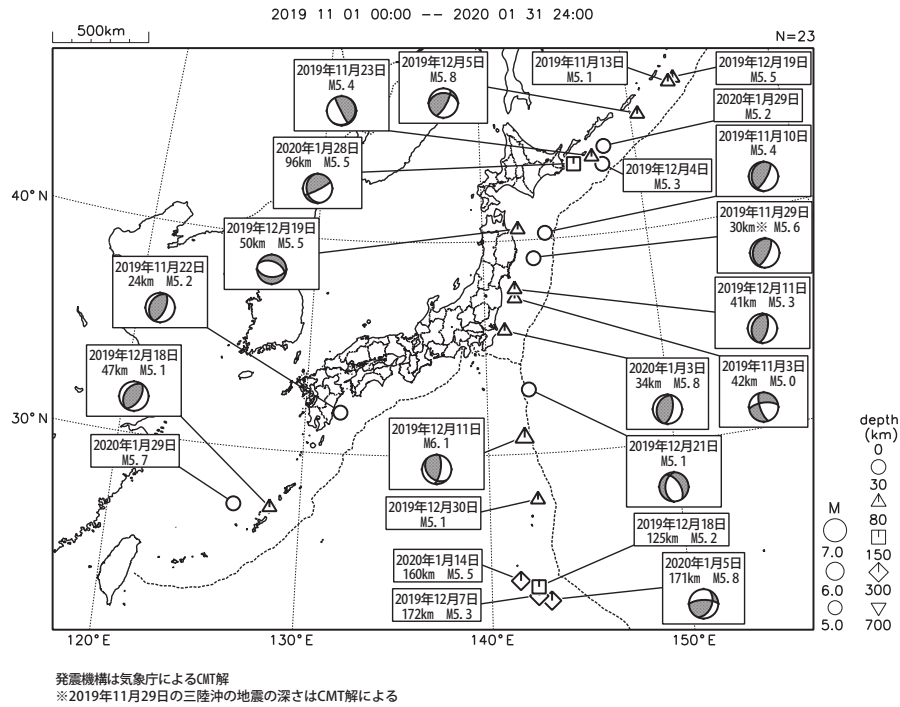
2019 年 11 月 22 日 18 時 05 分に日向灘の深さ 24 km で M5.2 の地震(最大震度 3)が発生した。この地震は、発震機構(CMT 解)が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。今回の地震の震源付近では、2019 年 5 月 10 日にも M6.3 の地震(最大震度 5 弱)が発生している。

(6) 沖縄地方とその周辺の地震活動(本巻「沖縄地方とその周辺の地震活動」の頁参照)

2020 年 1 月 16 日 18 時 36 分に沖縄本島近海の深さ 14 km で M4.2 の地震(最大震度 4)が発生した。この地震は陸のプレートの地殻内で発生した。

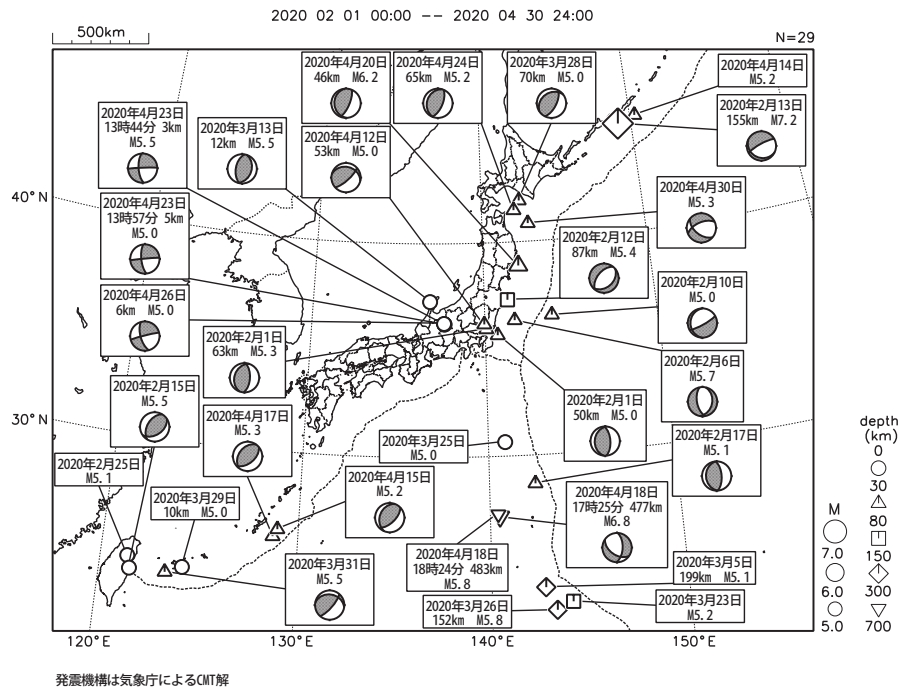
なお、本巻の気象庁作成資料は、特段の断りがない限り、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成している。2016 年 4 月 1 日以降の震源では、M の小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。2020 年 4 月 18 日以降の震源では、地震の規模の小さな地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以前と比較して微小な地震での震源決定数の変化(増減)が認められる。

日本とその周辺の地震活動 (2019年11月～2020年1月、 $M \geq 5.0$)



第 1 図 (a) 日本とその周辺の地震活動 (2019 年 11 月～2020 年 1 月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)
Fig. 1(a) Seismic activity in and around Japan (November 2019 –January 2020, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).

日本とその周辺の地震活動 (2020年2月～2020年4月、 $M \geq 5.0$)



第 1 図 (b) つづき (2020 年 2 月～4 月, $M \geq 5.0$, 深さ ≤ 700 km)
Fig. 1(b) Continued (February 2020 –April 2020, $M \geq 5.0$, depth ≤ 700 km).